

収納に着目した家が好調

大進ホームの「ラクいえ」

大進ホーム（札幌市）は、新型コロナウイルスで関心が高まる以前から、収納に着目した家づくりを提案してきた。2019年に初めて「片付く家」ブランドのモデルハウスを札幌市東区東苗穂にオープン。さらに収納の考え方を進化させ、整理収納アドバイザーが監修する「ラクいえ」ブランドを構築した。昨年8月から東区伏古でモデルハウスを公開しており、今では同社で注文住宅を建てる7割が「ラクいえ」を希望するという。

同社の星野覚一朗社長は、自身も整理収納アドバイザー1級の資格を持つ。また、社員全員に2級以上を取得させている。「収納スペースの多いことが必ずしもお客様の満足につながる。最適な収納を提案するためには、整理収納の理論を体系的に取り入れることが必要」と話す。

「ラクいえ」は、自由設計で顧客一人ひとりの暮らしに適した収納プランを提案し、「ラクに片付いてラクに暮らせる」を実践できる住まい。

そのために契約した施主に対し、①収納カウンセリング・間取り図アドバイザー②整理収納アドバイザー2級資格取得サポート③荷づくり・荷ほどきサポートの3つのサポートを無料でやっている。

星野社長は「整理収納の仕組みが分かれば、誰もが片づけ上手になれる。ムダが無くなり、ストレスが解消される。時間やお金に余裕ができ、その分を自分のために有意義に使える」



と、これからも顧客のための実践的な整理収納方法を広めていく意向だ。

「ラクいえ」のモデルハウス



「干す」「しまう」の洗濯動線に配慮したユーティリティ。ワイドなカウンターがあるとアイロンがけやたたむ作業がしやすい。

整理収納のプロに聞く!

工務店のための片付く家の作り方

施主が満足する収納を家づくりに取り入れるためにはどうしたらいいのか。整理収納アドバイザーとして多くの住宅に携わってきた川村あゆみ氏に話を聞いた。



整理収納アドバイザー・片付け研究家

SkipLife代表 川村あゆみ

収納部分を何度も見返したくなる「うっとり収納」を得意としている。大進ホームの「ラクいえ」を監修。整理収納アドバイザー1級、整理収納アドバイザー2級認定講師、親・子の片づけマスターインストラクター、ルームスタイリスト1級。

施主はなぜ後悔するのか?

新築の家が完成してから、収納に困って相談に来られる人も少なくありません。ここに置きたいものがあるのに収納スペースがない。逆に収納はあるのに置くものがない。どう使えばいいのか分からないなど、適材適所に収納場所が作られていないのが現状です。注文住宅は施主の望み通りにできる自由設計なのに、どうしてこのようなことが起きるのでしょうか。主な原因は二つあります。

一つ目は、施主が自分の持ち物を正確に把握できていないこと。例えば「洋服の数は多いですか?」と聞いても、他の人と比べたことがないので施主は自分の感覚で答えます。でも本人が「多い」と言っても、何百件もの家を見てきた私からすれば平均より少ないことがわかります。自分たちがどれくらいのモノを持っていて、どれだけの収納があれば事足りるのかを分かっていないまま家づくりをしているのです。

二つ目は、施主は新しい家でのどんな暮らしをするのかをイメージできていないこと。家を建てたら理想の暮らしができるだろうと漠然と思ってしまう方がいます。それは順序が逆で、家を建てる前に望む暮らしを深掘りしていくことが大切です。

子どもがスポーツに夢中になっていたら、土間収納など玄関近くに汚れものを置くスペースがあったほうがいいでしょう。そんな風に暮らし方を二つ一つ具体化することで必要な収納が見えてきます。

正しい手順は?

整理収納の手順は、家を建てる前からですが、家を建てる

る設計者も整理収納の基本や正しい手順を知らない人が多いのではないのでしょうか。手順が分かればいつもすっきりとした片付く家になります。

基本は①整理②収納③片付け④掃除の順に行うことです。①の整理は、モノを選別する行為。好きなものや使うもの、必要なものを選ぶことです。「捨てる」という考えはネガティブになりがちですが、「選ぶ」となれば前向きでポジティブになります。

②の収納は、①で選んだモノを使いやすくするための仕組みづくり。かつてモノが少なかった時代、収納とは「モノをしまうこと」でした。今でもそう思っている人はいるでしょう。でもモノが溢れている現代は「大事にしまっておく」のではなく、「使ってあげる」ことがモノを大事にすることです。

③の片付けは、使い終わったモノを元の場所に戻す行為。収納が使いやすいければ片付けは簡単にできます。逆に収納が適材適所ないと片付けが上手にできず、モノが散らかったままになってしまいます。

④の掃除は、家をきれいにすること。掃いたり拭いたり、毎日の行為です。こうして手順を追うと、②の収納がすっきりとした暮らしの土台であることが分かります。片付けができないのは個人の能力不足ではなく、適材適所の収納がないことが原因と理解できるでしょう。ここを踏まれば施主が満足する家づくりができると思います。

適材適所を提案するには?

まず施主が今の暮らしで持っているモノを知ることが必要です。例えば家族の靴の量が少なければ「I型の大きな玄関収納

よりもカウンタータイプの下駄箱で十分ですね」と提案できます。そこで奥様から「それならフラワーコーディネートを買っているのだから飾れますね」と喜ばれたら施主の満足度が上がります。

ウォークインクローゼットも一家に一つあるのが当たり前と思われがちですが、今は服にこだわる男性も多いので夫婦別々のクローゼットのほうが使いやすい場合があります。

施主の持ち物の量を知るには、実際に今住んでいる家を見せたいことが一番です。

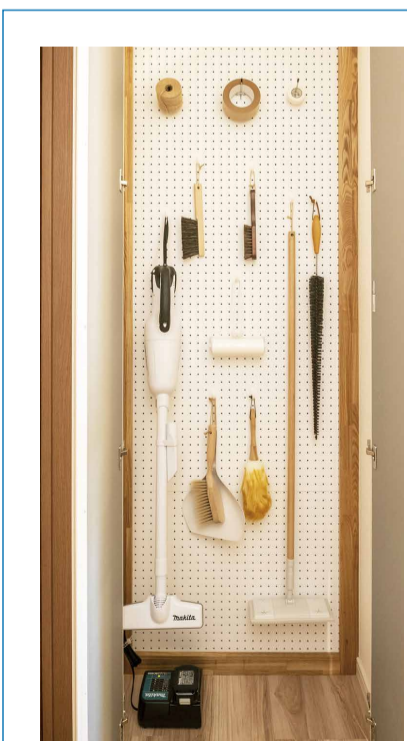
以前、建築士の人と一緒に伺ったことがありますが、その施主の方は蔵書がたくさんあり、本棚を造作することが決まっていた。建築士が蔵書を確認すると奥行きのある大型本が何冊もあり、プランニングしていた本棚でははみ出してしまつていました。

そのままだと分かってしまったら、作り替えの追加工事が発生することになったかもしれない。次に、どんな暮らしをしたいのかについて施主と共通認識を持つことが大切です。暮らし方によって、どんなモノの置き場所が決まります。

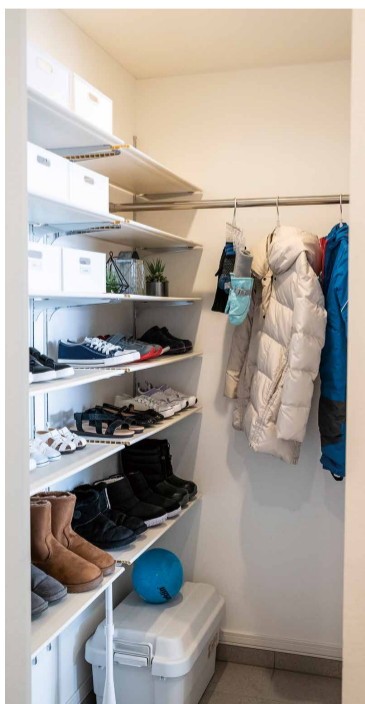
食器集めが趣味だったり、お掃除ロボットなど電化製品を多く使ったりするから、収納プランが変わってきます。一日の動きによって何をどこに置くのかを考えれば、適切な収納プランが導き出されます。

によってモノの置き場所が決まります。

適材適所に収納があると、ラクに片付けられる家になります。すっきりとした暮らしができてストレスがなくなり、時間にも余裕が生まれます。そうした家は施主の満足度がずっと高いものになるでしょう。



掃除道具の壁掛け収納。出し入れがしやすいので毎日の掃除がテキパキとはかどる。モノを床に置かずフックやバーに掛ける収納は様々な場面で応用できる。



シューズクローゼットは家族の靴の量を把握して適切な大きさに。ハンガースペースを設ければ外出時の上着を室内に持ち込まなくて済む。



施主が掃除ロボットを使うならリビングの一角に置き場所を。携帯の充電器やスマートスピーカーなど持ち物に合った収納スペースを設ける。